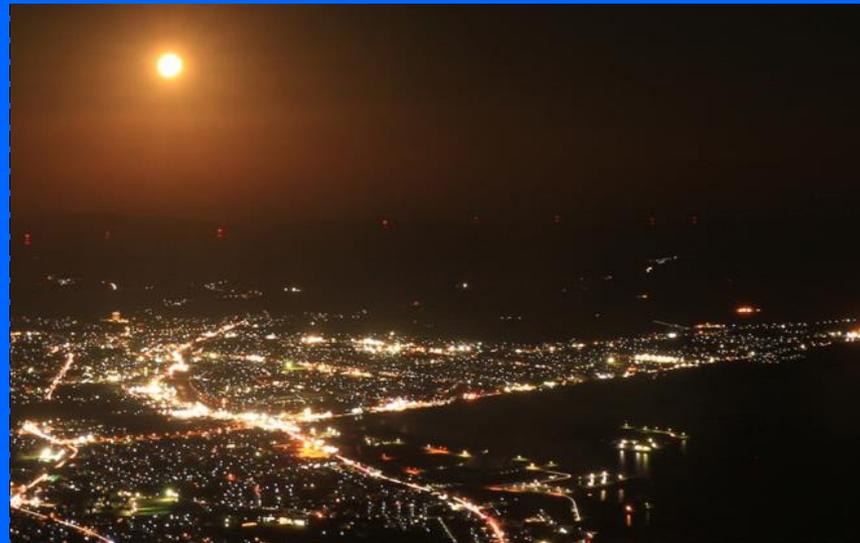


都市構造可視化の活用

～業務における活用～



東北地方整備局建政部計画管理課

活用する業務について (1/2)

東北圏広域地方計画に関する業務

東北圏広域地方計画中間とりまとめ (素案) 概要版

(対象区域：青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、新潟県)

現状・課題

- 東日本大震災からの復興・再生
- 激甚化・頻発化する自然災害への対策の強化
- 深刻な人口減少・少子高齢化に適応する地域の形成
- 若年層・女性の転出を抑える誰もが活躍できる地域づくり
- 豪雪地帯における克雪・利雪・親雪
- 国際競争力のある産業の振興
- コロナ禍で落ち込んだ交流人口の回復
- デジタルトランスフォーメーション (DX) の遅れと成長の停滞からの脱却
- 地球規模の環境問題への対応
- 美しい国土や歴史文化の保全と活用
- 公共投資の重点化と効率化、民間活力の導入

将来像・目標

【将来像】東北圏から示す新たな選択肢 ～課題を新たな価値に変換し、開かれた圏域へ～

4つの基本方針	基本方針1 「安心を灯す (ともす)」	防災先進圏域として、世代を超えて震災伝承とレジリエンス(強さとしなやかさ)を世界に発信する東北圏	復興・再生の強い力を未来につなげる社会の実現
	基本方針2 「自然を愛でる (めでの)」	グリーンな国土づくりとカーボンニュートラルに挑戦する東北圏	美しい国土の保全と恵みある豊かな自然の継承・利活用
	基本方針3 「恵みを分かち (わかち)」	国際競争力を持つ先端産業と豊かな地域資源の活用により、日本全体をけん引する東北圏	「脱炭素化への挑戦」と「安定的なエネルギー供給」の両立の実現 豊かな地域資源の活用と先端産業の挑戦による国際競争力の強化
	基本方針4 「生活を紡ぐ (つむぐ)」	デジタルとリアルが融合した地域生活圏により、全国に先駆ける人口減少下でも持続可能な東北圏	交流・連携強化による世界とつながるネットワークの実現 東北圏民が総活躍する「自分らしさ実現チャレンジ」の推進 デジタルとリアルの融合により人口減少に打ち克つ地域生活圏の形成

基本方針実現に向けた東北圏の回転軸

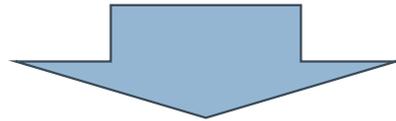
広域連携プロジェクト

<p>1. 新しい未来を創造する東日本大震災からの復興</p> <p>○東日本大震災・原子力災害からの復興・再生・安全・安心で活力ある社会・生活基盤の構築</p> <p>復興道路、復興支線道路の全線開通(三陸沿岸道 釜石ICのの様子)</p> <p>2: レジリエンスの実践を通じて効果を発揮する防災先進圏域形成</p> <p>・災害への総合的対策による安全・安心な圏域の形成 ・災害の経験と教訓の伝承</p> <p>○復興の軌跡・技術力の伝承により防災先進圏域として国内外の防災力向上をけん引 ・インフラの戦略的・計画的な維持管理や更新</p> <p>3.1伝承ロードの推進</p> <p>3: 東北圏の自然環境・水環境や景観の保全・継承</p> <p>・豊かな自然や風景との共生、恵みの継承 ・健全な生態系の保全・再生 ・地域資源・文化等を活かした地域価値の向上 ・自然環境・生物多様性を重視した取組の推進</p> <p>4: 地域と共生した脱炭素社会の実現へ挑戦する構造転換</p> <p>・エネルギーミックスやGXによる脱炭素社会への構造転換 ・地域が暮らしの脱炭素化、CO2対策、省エネ化の推進 ・安全かつ安定的で地域と共生したエネルギー供給の体制構築の実現</p> <p>○エネルギーの地産地消・地域循環をふまえた東北圏の資源や特性の最大限の活用</p> <p>▲現代海洋エネルギー発電所 出典: 国土形成計画推進協議会</p>	<p>5: 次世代産業の研究・集積による産業振興の推進</p> <p>○戦略的な企業立地、次世代技術の国際研究開発拠点の集積 ・高度技術開発やものづくり人材の育成の促進 ・産学官連携によるイノベーションの創出</p> <p>6: 東北圏の資源を活かした農林水産業の収益力向上</p> <p>・安全・安心で高品質な農林水産物の提供や6次産業化による付加価値の高い商品の創出、収益力向上 ・技術開発や多様な担い手の育成・確保と生産・流通基盤の整備</p> <p>7: 「四季の魅力溢れる東北圏」を体験できる滞在交流型観光圏の創出</p> <p>・観光資源である「日本のふさと、原風景」への愛着や誇りの醸成・発掘・磨き上げ ・長期滞在が可能な観光圏の創出</p> <p>8: 東北圏の発展をけん引する日本海・太平洋2面活用による交通ネットワークとグローバル・ゲートウェイ機能強化</p> <p>○日本海・太平洋の2面活用型国土の形成と高速交通網・広域連携の強化 ・交通ネットワークの組み合わせによる輸送の速達性、選択性の向上 ・物流機能の高度化・効率性 ・グローバル・ゲートウェイ機能強化</p> <p>4縦貫7横断格子状ネットワーク</p>	<p>10: 東北圏の未来を創る次世代人材育成</p> <p>・産学官連携による地域産業の高付加価値化や対話型コミュニケーションによる人材確保・育成 ・地域の課題を自ら解決するための地域発イノベーションの推進</p> <p>11: 多様な主体との連携・協働と地域コミュニティによる地域活性化</p> <p>・地域活動への多様な主体の参画、地域コミュニティのあり方の見直し ・インフラ整備・運営の効率化に向けたPPP/PFIによる民間活力の導入推進</p> <p>12: 人口減少社会に対応した東北圏版地域生活圏</p> <p>・職場環境の整備推進、福祉のきっかけづくり ・環流・流入する人材の受け入れ意識の醸成 ・圏民すべてが活躍できる環境の整備</p> <p>○「デュアルライフ東北・新潟」の推進</p> <p>▲デュアルライフ東北・新潟 出典: 東北経済連合会</p> <p>13: 誰もが恩恵を享受できる東北圏版地域生活圏形成</p> <p>・全世代がデジタルの恩恵を享受できる仕組みづくり ・過疎なさらではの人の深いつながりを活かした分野や官民の垣根を越えた連携</p> <p>○地域内で自立して日常生活に必要な機能を確保できる東北圏版地域生活圏の形成</p> <p>14: 他圏域との連携</p> <p>・シームレスな広域交通ネットワークの充実・強化による他圏域とのヒト、モノ、カネ、情報の対流促進、地域活性化及び防災力強化の推進 等</p>
--	--	---

※本資料は、東北圏広域地方計画協議会や、東北圏広域地方計画有識者懇談会における議論等を踏まえ、令和6年12月時点での検討状況を整理したものであり、今後、広域連携プロジェクトに関する記述内容の追記・更新や時点修正など、必要な追加・変更を行うものである。

東北圏広域地方計画に関する業務内容

- 令和6年12月に中間とりまとめ（素案）を公表しました。
- 今後、内容の精査、分析などを経て、東北圏広域地方計画の公表となる予定となっています。



上記をうけて、内容の精査、分析、資料の作成等で、都市構造可視化の活用の可能性があると考えます。

どのように活用するか

作成する資料について

東北圏広域地方計画

(対象区域：青森県、岩手県、宮城県、

現状・課題

1. 東日本大震災からの復興・再生
2. 激甚化・頻発化する自然災害への対策の強化
3. 深刻な人口減少・少子高齢化に臨む地域の形成
4. 若年層・女性の転出を抑える誰もが活躍できる地域づくり
5. 豪雪地帯における利便性・利雪・親雪

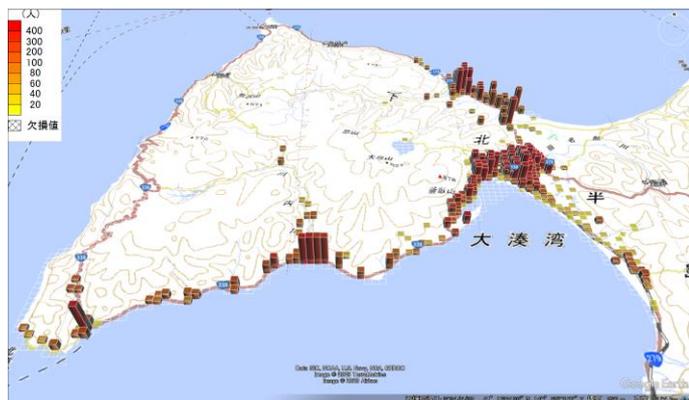
少子高齢化を
表す資料を作成
できないか？

人口減少を表す資料を
作成できないか？

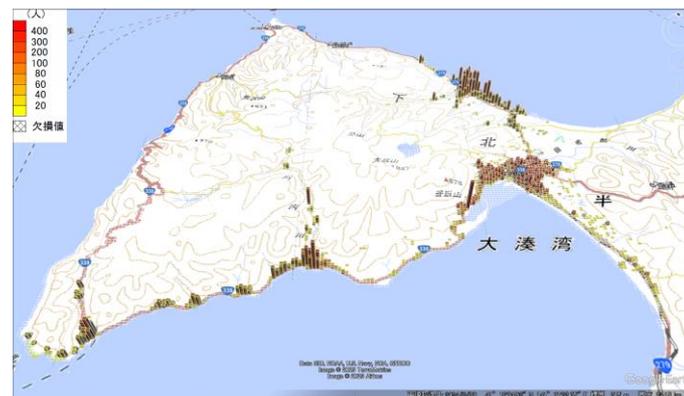
作成したデータ（1 / 2）

直近（2020年）と過去（2000年）の人口総数の比較

2000年 人口総数
(青森県むつ市・旧町村含む)



2020年 人口総数
(青森県むつ市)

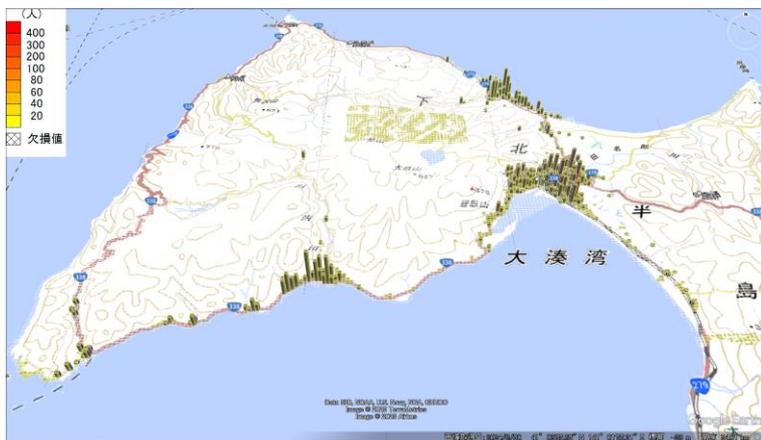


- ① 政府統計の総合窓口（e-Stat）よりダウンロードしたメッシュデータから、QGISによりshpファイルを作成。
- ② shpファイルをMANDARAによりKMLを作成。
- ③ 地理院地図の標準地図により表示。

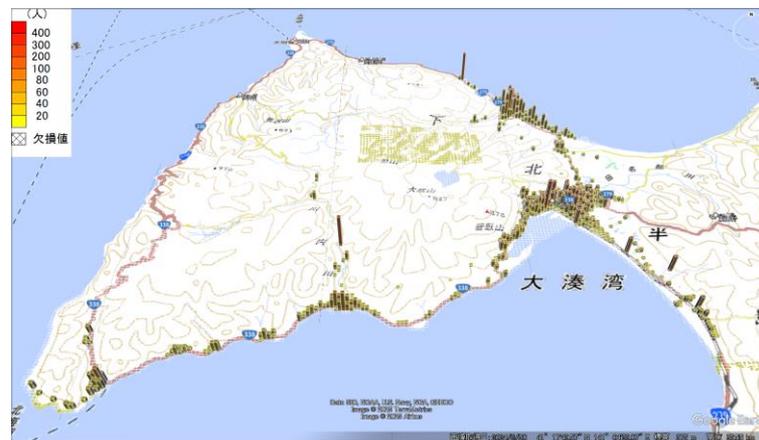
作成したデータ（2 / 2）

直近（2020年）の若年者人口、高齢者人口

2020年
0～14歳人口総数
(青森県むつ市)



2020年
65歳以上人口総数
(青森県むつ市)



※ 5ページの人口総数のデータと同様、政府統計の総合窓口（e-Stat）よりダウンロードしたメッシュデータを、QGIS及びMANDARAにより加工し、地理院地図の標準地図により表示しています。

個人的に思った点をまとめてみました。

【良かった点】

予備知識が乏しい状況でも、手順等が示されていれば、基本的なデータを作成することができました。

【課題】

- 地図関係の知識がなく、パソコン等に慣れていない人にとっては、若干敷居が高いと感じました。
- 基本的なデータは、政府統計の総合窓口（e-Stat）からダウンロードできますが、更に活用させるためには、自治体でのオープンデータの取り組みが必要と感じました。



青森空港

青森空港 → 青森駅
JRバス東北 約40分
青森駅 → 野辺地駅
青い森鉄道 約50分
野辺地駅 → 下北駅
JR大湊線 約60分



むつ市

最寄駅：下北駅
【ふるさと納税】
<https://www.city.mutsu.lg.jp/government/furusato/>



八戸駅

八戸駅 → 野辺地駅
青い森鉄道 約50分
野辺地駅 → 下北駅
JR大湊線分 約60分

地理院地図を使用